IFCA日本ユースチーム ◎ 各支部の2019年度の目標とアクションプラン

・東京支部

１「啓発」

・登壇活動やインタビューなどを通して、社会的養護に対する啓発活動を行う

・多くの人に社会的養護を身近に感じてもらうことが出来るような活動を実施する

・社会的養護の現場で実際に子どもと関わる人への、当事者の声を聞くことの大切さなどの啓発活動を行う

２「つながり」

・Permanency Pactなどを通して社会的養護の当事者同士だけではなく、様々な人との繋がりを作っていく

・登壇活動など様々な場面で仲間を増やしていく

・社会的養護を知らない人との繋がりも活動を通して広げていく

３「成長」「自己実現」

・IFCAユースとしての活動で周囲への啓発だけではなく、自分自身も成長出来るよう真剣に取り組む

・当事者活動を通して、今までの人生を振り返り人に話すことなどで、自己肯定感を高め、自分に自信を持てるようになるのでは

・当事者活動を通して「なりたい自分」を実現していく

４「権利の保障」

・インケアの時も、ケアを離れた後も当事者の権利が守られるよう、政策提言なども視野に入れ活動を実施する

→東京支部は１「啓発」、２「つながり」、３「成長」「自己実現」、４「権利の保証」の４つをCYC (California Youth Connection)の活動指針の様に柱に見立てて、当事者活動を実施することを今年度の目標として話しあっていた為、それぞれの柱のアクションプランは考えていませんでした。柱の下のアクションプランは私がチーム内のディスカッションの内容から抽出して書き出したものです。

・静岡支部

１「広める」

・社会的養護の関係者ではない人たちに知ってもらう（先生や教育学部の学生への講演、学校の授業内で子供向けに話す）

・LGBTQでいうレインボーのように社会的養護のサインをつくり周知

・学校で扱う教材の中に家族の多様性を盛り込む、指導要領に入れたい

２「つながる」

・性の多様性がどのように社会に広まったか、その取り組みに私たちが学びにいく

・身近なコミュニティから働きかける（高橋は大学にハラスメント事案として持ち込み全学に広めることを卒業までの目標とします）

・静岡の施設のこどもたちと仲良くなる

・静岡のユースと知り合う

３「協働する」

・施設職員と協働しケアを受ける子供たちと（進学や就労について）語らう機会を設ける

・関西支部

１「啓発」

・関西メンバーを増やす

・京都市の自立支援事業での接点を探す

・FB等での発信

・関西チーム帰国報告会を実施する

２「教育・研修」

・京都市の自立支援コーディネーター対象の研修会をIFCA関西で請け負う（Strategic Sharing や Permanency Pact について）

・9月の渡米プロジェクトに合わせて京都市の社会的養護関連事業で何か企画を行う

３「政策提言」

・京都市の都道府県計画委員になるための働きかけをする

４「交流・子どもの権利保障」

・アメリカユースが日本に来日した際にどこかの施設に行ってシアトルのことを伝える場を設ける

・将来的に Strategic Sharing の勉強会（措置中の子どもたち）に届けることを目指す

・福岡支部

１「普及」

・社会的養護を知らない層にも理解を深める

・広い層に届く新聞の取材やネットでの活動を活性化

２「権利保証」

・社会的養護で育つなかで子どもの権利がはく奪されていないか、誰もが意識化する

・自分たちも権利について勉強理解し、現状の把握に努める

・権利は難しくなりがちなので発信する際も届く伝え方を吟味する(エピソードにからめるなど)

３「力を抜いて楽しむ」

・ミッションを堅苦しくなく、楽しく遂行していく

文責：佐藤智洋（さとうひちろ・東京チーム）

２０１９年３月３１日